

東通原子力発電所1号炉審査資料	
資料番号	A1-CA-0114
提出年月日	2023年4月17日

東通原子力発電所
基準地震動の策定に関する
審査資料の修正について

2023年4月17日
東北電力株式会社

過去審査資料の確認について

- 第1113回審査会合(2023.2.10)で説明した是正処置(専門的な観点によるチェックルールの明確化, 審査資料の重要性に係る教育の実施)を経て, 基準地震動の策定に関する以下の審査資料について, 資料全体を改めて確認した。
- 確認の結果, 新規制基準への適合性に関する説明内容に影響はなかったが, 第1113回審査会合(2023.2.10)で報告済みの1件を含む, 計9件(12箇所)の記載を修正した。本資料においては, 修正前後の内容を示す。
- また, 他に誤字・脱字等を確認した。これらについては誤字・脱字等の正誤表(p.15~16)に示す。

審査項目	確認資料	
地下構造	第943回 審査会合 (2021.2.5)	資料1-2-1 東通原子力発電所 基準地震動策定のうち地下構造評価の概要
		資料1-2-2 東通原子力発電所 基準地震動策定のうち地下構造の評価について(コメント回答)
		資料1-2-3 東通原子力発電所 基準地震動策定のうち地下構造の評価について(コメント回答)(補足説明資料)
	第865回 審査会合 (2020.6.4)	机上配布資料1 東通原子力発電所 基準地震動策定のうち地下構造の評価について(コメント回答)(ボーリング柱状図・コア写真)
プレート間地震	第968回 審査会合 (2021.4.23)	資料1-1 東通原子力発電所 基準地震動の策定のうちプレート間地震の地震動評価について(コメント回答)
		資料1-2 東通原子力発電所 基準地震動の策定のうちプレート間地震の地震動評価について(コメント回答)(補足説明資料)
海洋プレート内地震	第973回 審査会合 (2021.5.14)	資料1-1 東通原子力発電所 基準地震動の策定のうち海洋プレート内地震の地震動評価について(コメント回答)
		資料1-2 東通原子力発電所 基準地震動の策定のうち海洋プレート内地震の地震動評価について(コメント回答)(補足説明資料)
内陸地殻内地震	第1039回 審査会合 (2022.4.11)	資料1-1-1 東通原子力発電所 内陸地殻内地震のうち検討用地震の設定の概要
		資料1-1-2 東通原子力発電所 基準地震動の策定のうち内陸地殻内地震の地震動評価について(コメント回答)
		資料1-1-3 東通原子力発電所 基準地震動の策定のうち内陸地殻内地震の地震動評価について(コメント回答)(補足説明資料)
震源を特定せず策定する地震動 (全国共通に考慮すべき地震動)	第1080回 審査会合 (2022.10.7)	資料4-1 東通原子力発電所 震源を特定せず策定する地震動の評価について(全国共通に考慮すべき地震動)(コメント回答)

過去審査資料の修正内容

No.	審査項目	修正資料		ページ	修正内容
1	地下構造	第943回 審査会合 (2021.2.5)	資料1-2-2 東通原子力発電所 基準地震動策定のうち地下構造の評価について (コメント回答)	24	コア写真の修正
2-1				34	施設着色の修正
2-2				35	
3				51	震央距離の修正
4				66	語句の修正
5				115	震央距離の修正
6			137	検討条件の追記	
2-3			資料1-2-3 東通原子力発電所 基準地震動策定のうち地下構造の評価について (コメント回答)(補足説明資料)	40	施設着色の修正
2-4				41	
7				57	表層厚さの修正
8	第865回 審査会合 (2020.6.4)	机上配布資料1 東通原子力発電所 基準地震動策定のうち地下構造の評価について (コメント回答)(ボーリング柱状図・コア写真)	36	コア写真の修正 ※第1113回審査会合 (2023.2.10)で報告し た内容	
9	プレート間 地震	第968回 審査会合 (2021.4.23)	資料1-2 東通原子力発電所 基準地震動の策定のうちプレート間地震の地震動評価について (コメント回答)(補足説明資料)	9	北緯の修正

- 岩盤分類(風化区分基準)について、「風化区分2」のコア写真として、「風化区分3」のコア写真(O₃-5:4.76-4.84m)を貼り付けていた。
- 第1113回審査会合(2023.2.10)で報告した新たな資料チェックルールに基づき、専門家によるコア写真と柱状図との確認を行ったところ、風化区分として適切なコア写真が貼られていないことが分かった。
- 地質断面図に示す風化状況の記載は、柱状図の情報に基づき作成していることから、新規基準への適合性に対する説明内容に影響は無い。

2.2 原子炉建屋基礎地盤の工学的特性
(9) 岩盤分類(風化区分基準)

第903回審査会合(R2102) 資料2-1-2 p.22 再掲 24

➤ 敷地の岩盤は、色調、硬さ等から風化区分2~5の風化岩盤と、未風化の新鮮岩に区分される。

風化区分	性 状	コ ア 写 真
5	原岩の組織が全く認められないか、かろうじて原岩の組織が認められるもの。新鮮な礫を含まない。全体に褐色化している。	(O ₂ -1:0.78 - 0.94m)
4	礫・基質ともに変色している。基質はかなり軟質化し、指圧で崩れる。礫も軟質化している。	(O ₂ -5:3.40 - 3.59m)
3	基質は全体に変色しているが、指圧で崩れない程度に硬い。礫は変色し、やや軟質化しているが、新鮮部を残すものが主体である。	(O ₂ -5:4.38 - 4.55m)
2	基質はわずかに変色し、やや軟質化しているが、概ね硬質である。礫は新鮮である。	(O ₂ -5:4.76 - 4.84m)
	新鮮である。	(O ₂ -5:23.20 - 23.40m)

より、そら、ちから。 東北電力

(誤)

2.2 原子炉建屋基礎地盤の工学的特性
(9) 岩盤分類(風化区分基準)

第903回審査会合(R2102) 資料2-1-2 p.22 再掲 24

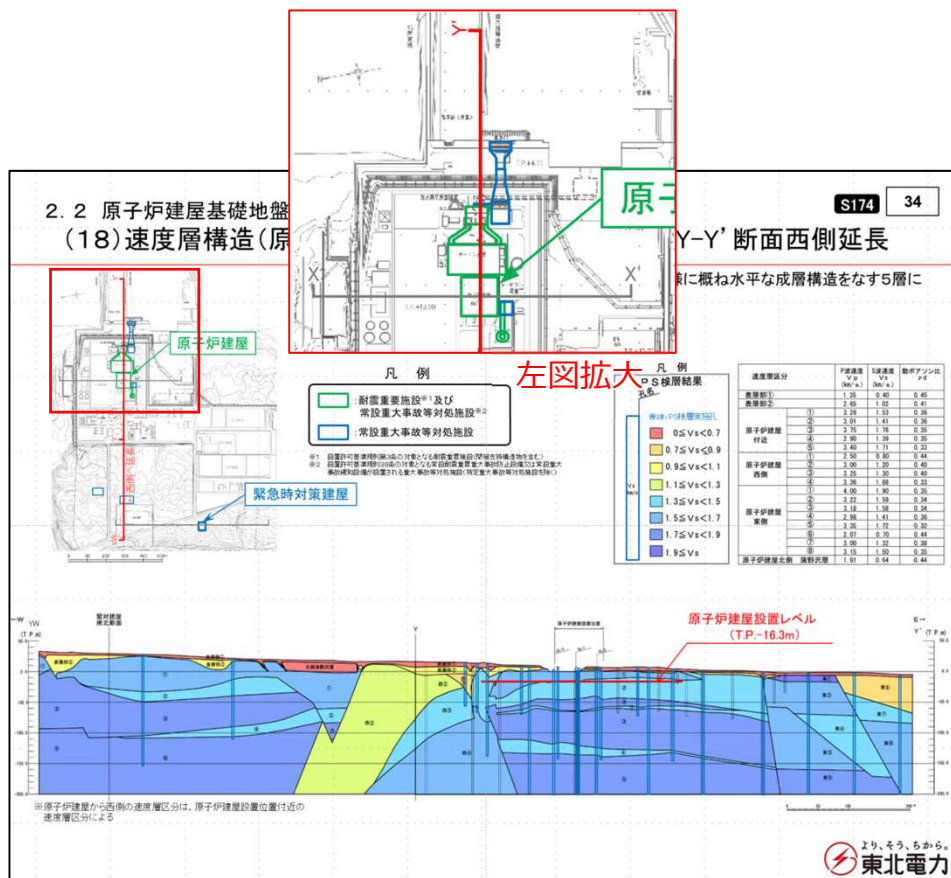
➤ 敷地の岩盤は、色調、硬さ等から風化区分2~5の風化岩盤と、未風化の新鮮岩に区分される。

風化区分	性 状	コ ア 写 真
5	原岩の組織が全く認められないか、かろうじて原岩の組織が認められるもの。新鮮な礫を含まない。全体に褐色化している。	(O ₂ -1:0.78 - 0.94m)
4	礫・基質ともに変色している。基質はかなり軟質化し、指圧で崩れる。礫も軟質化している。	(O ₂ -5:3.40 - 3.59m)
3	基質は全体に変色しているが、指圧で崩れない程度に硬い。礫は変色し、やや軟質化しているが、新鮮部を残すものが主体である。	(O ₂ -5:4.38 - 4.55m)
2	基質はわずかに変色し、やや軟質化しているが、概ね硬質である。礫は新鮮である。	(O ₂ -1:11.70 - 11.90m)
	新鮮である。	(O ₂ -5:23.20 - 23.40m)

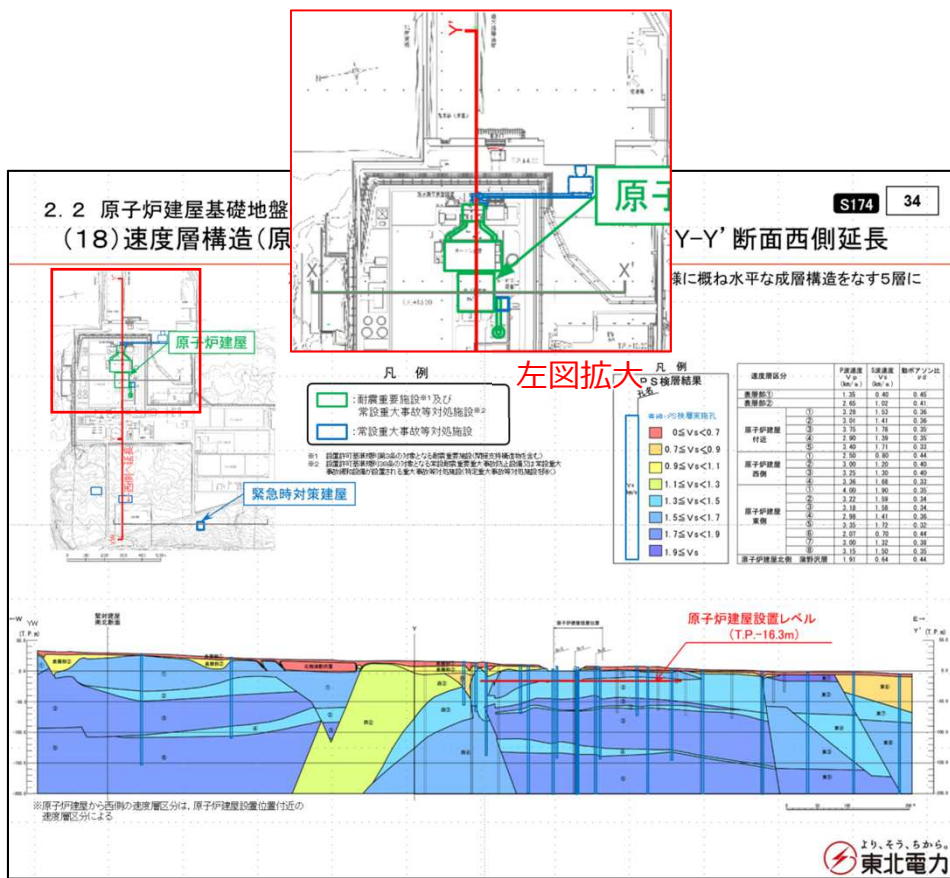
より、そら、ちから。 東北電力

(正)

- 速度層構造の断面位置を示す平面図について、補機取水系施設を常設重大事故等対処施設として着色すべきところ、取水系施設に着色していた。
- 平面図は速度層構造の断面位置を示すものであり、断面位置は正しく記載されていることから、新規制基準への適合性に対する説明内容に影響は無い。

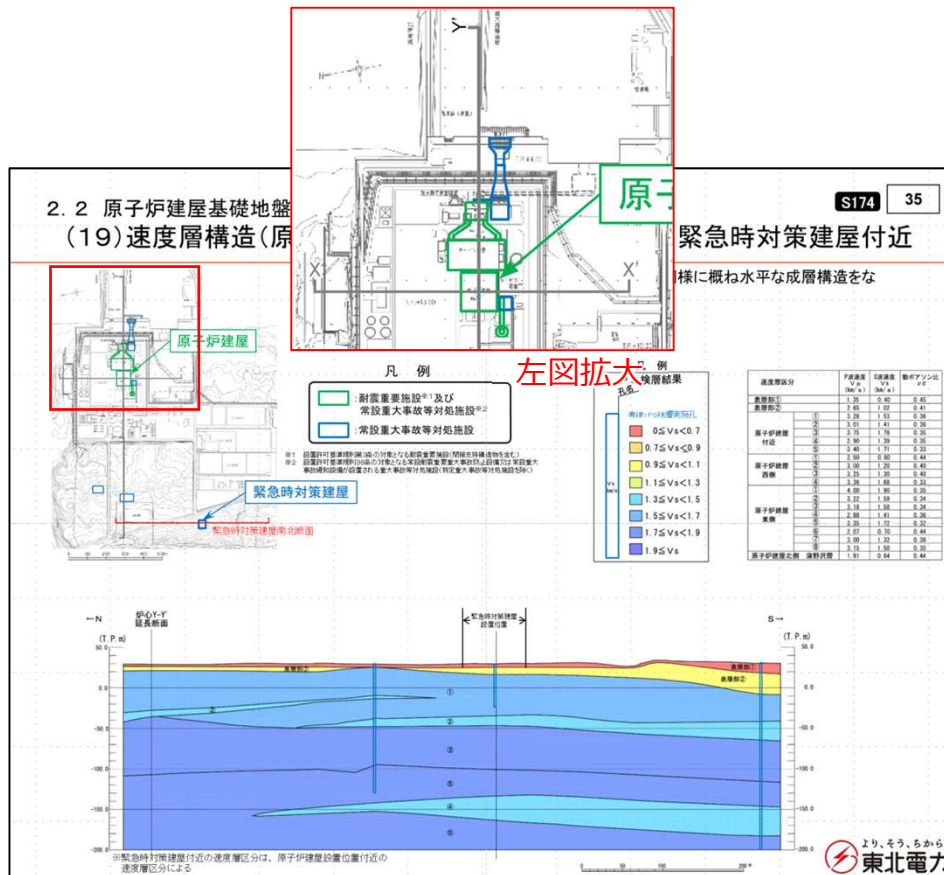


(誤)

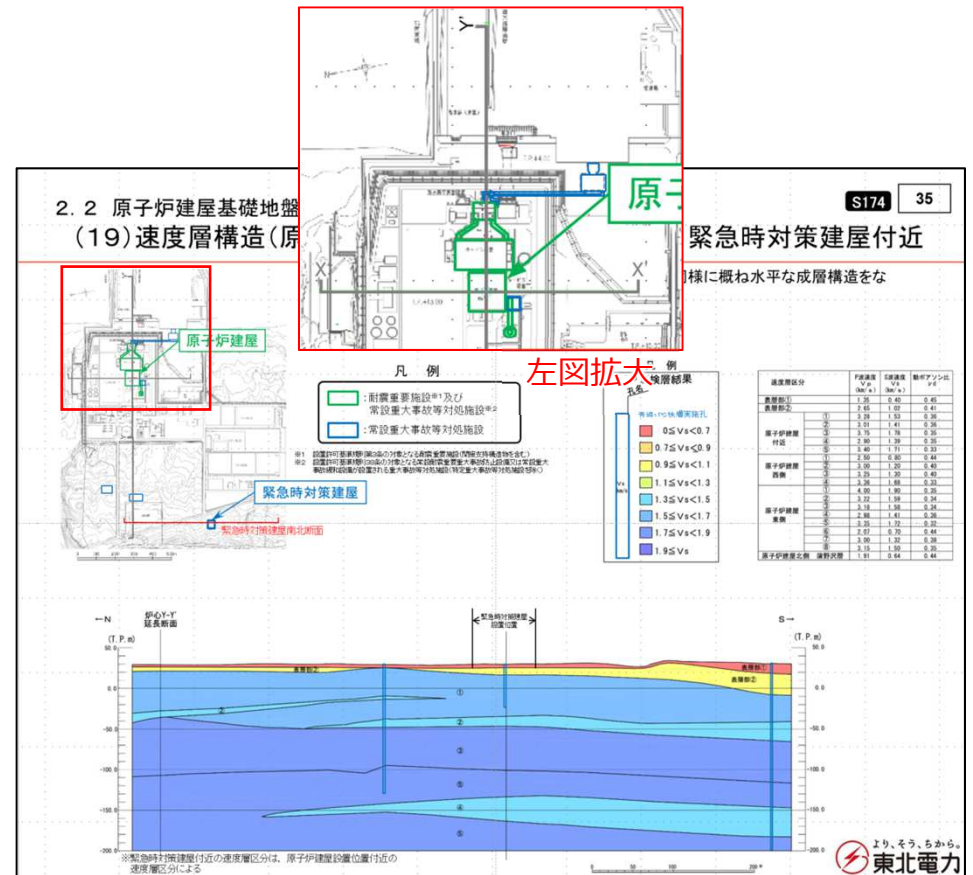


(正)

- 速度層構造の断面位置を示す平面図について、補機取水系施設を常設重大事故等対処施設として着色すべきところ、取水系施設に着色していた。
- 平面図は速度層構造の断面位置を示すものであり、断面位置は正しく記載されていることから、新規基準への適合性に対する説明内容に影響は無い。



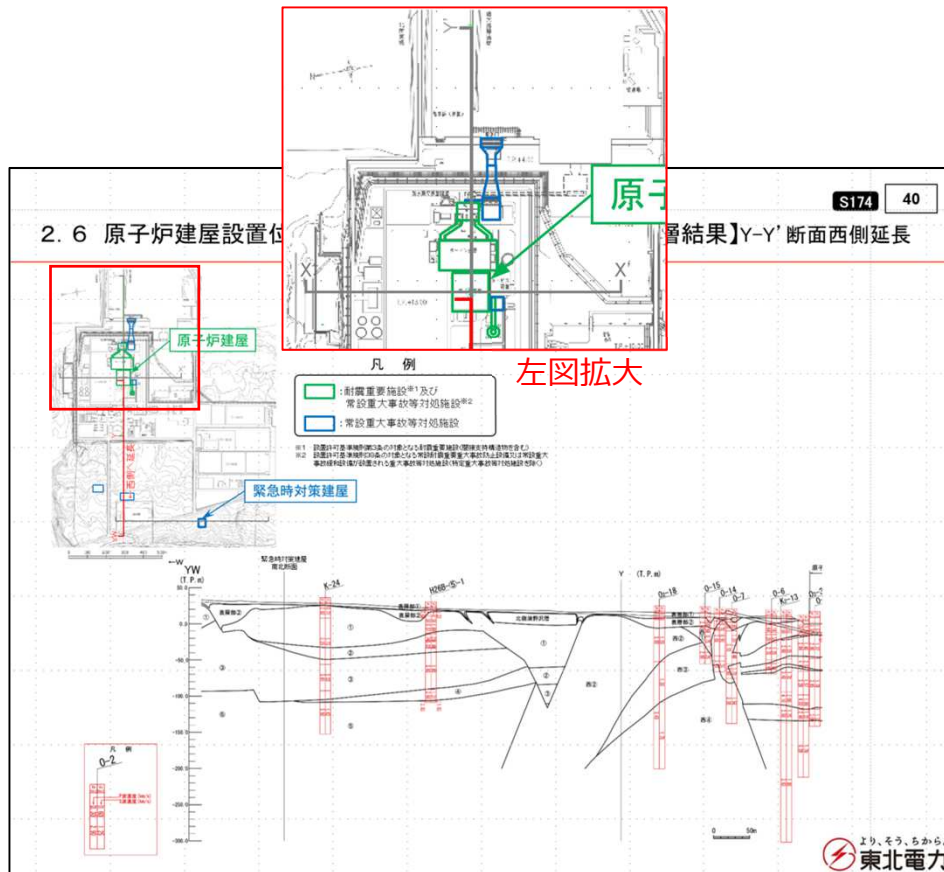
(誤)



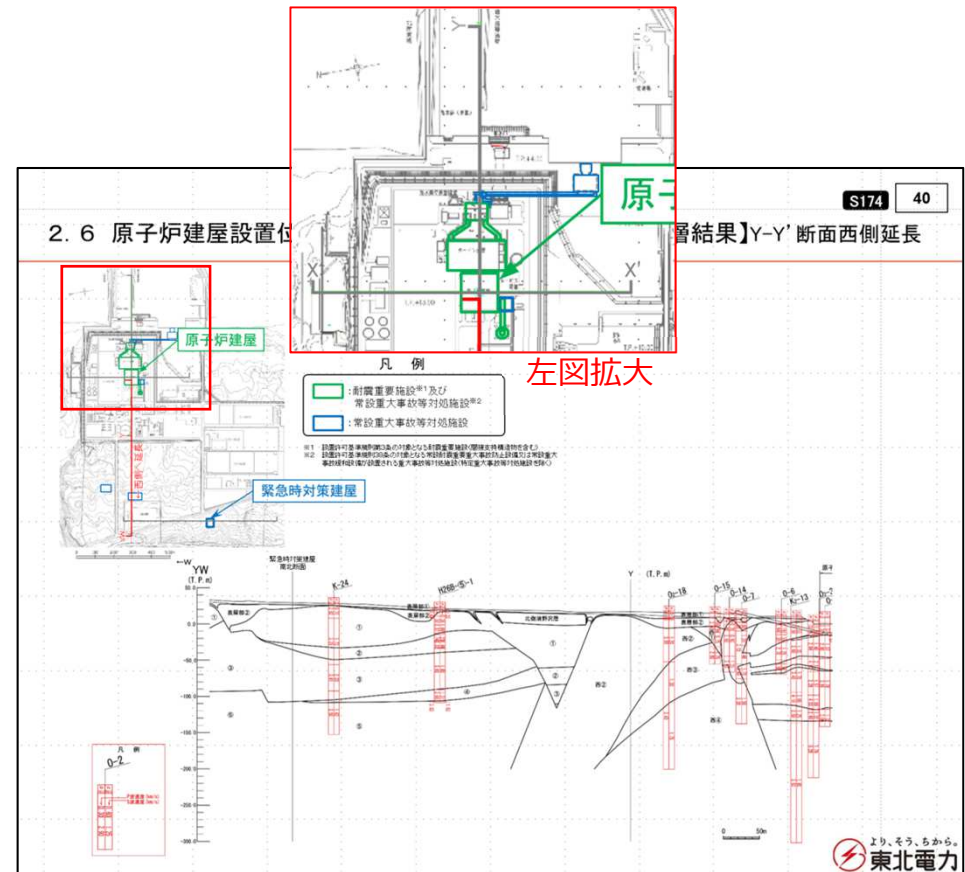
(正)

資料1-2-3 東通原子力発電所 基準地震動策定のうち地下構造の評価について
(コメント回答)(補足説明資料) p.40

- 速度層構造の断面位置を示す平面図について、補機取水系施設を常設重大事故等対処施設として着色すべきところ、取水系施設に着色していた。
- 平面図は速度層構造の断面位置を示すものであり、断面位置は正しく記載されていることから、新規基準への適合性に対する説明内容に影響は無い。



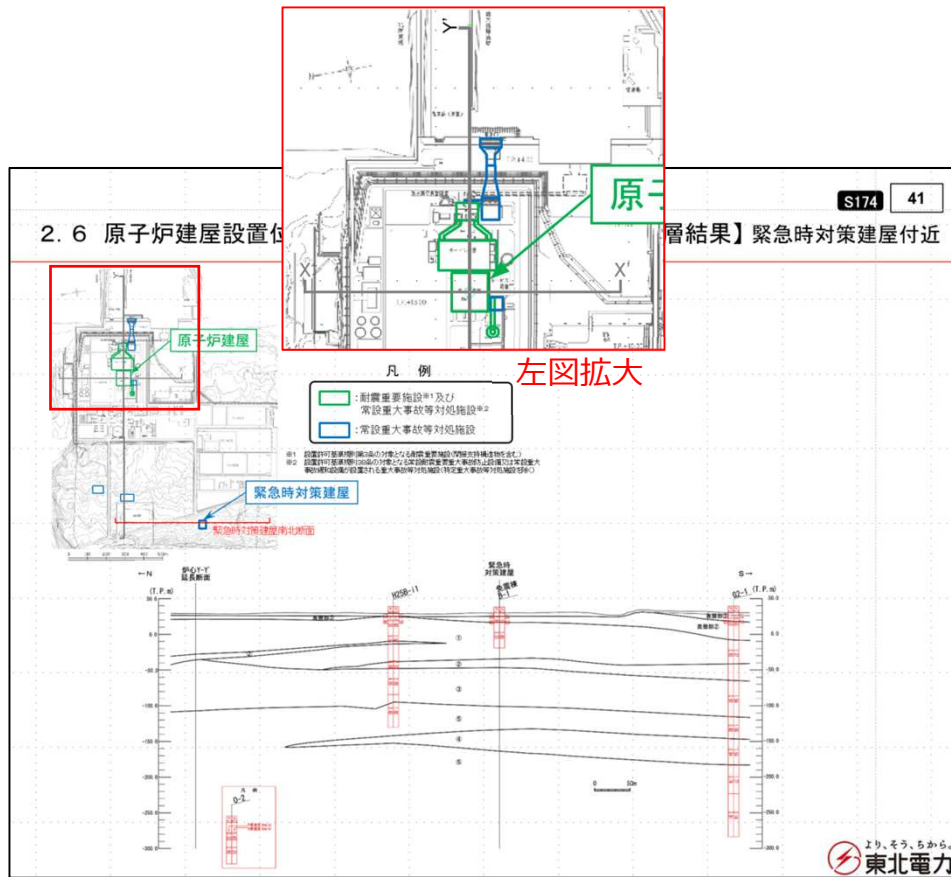
(誤)



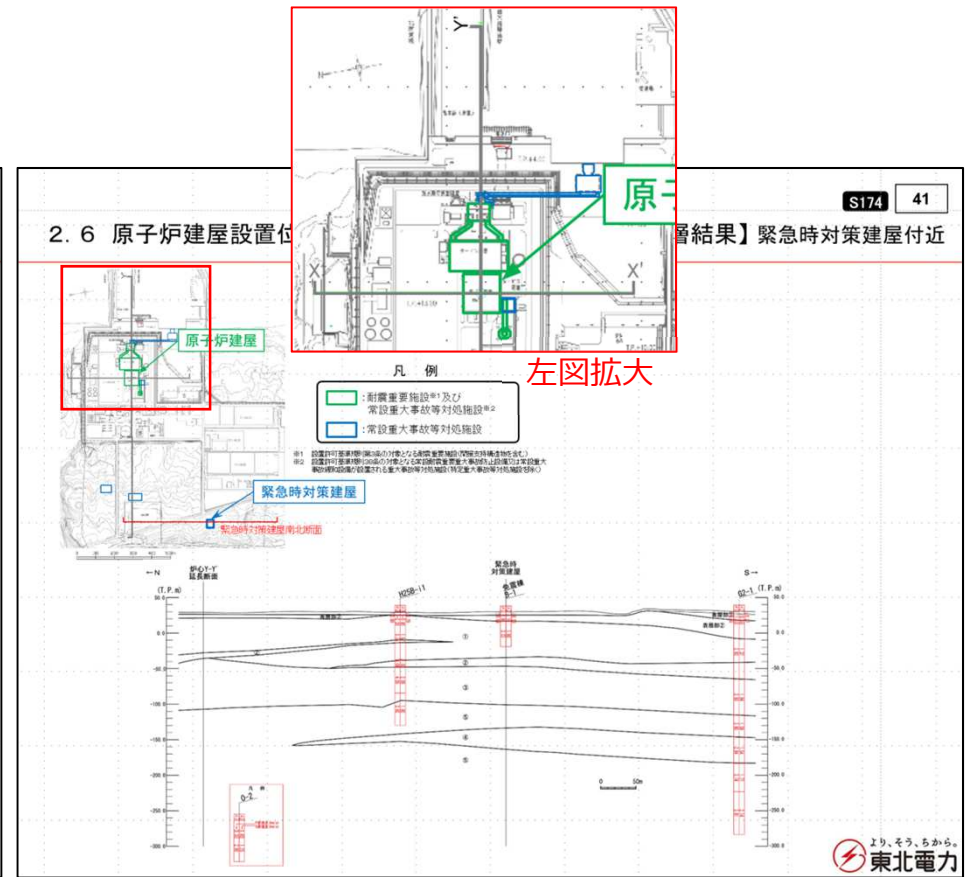
(正)

資料1-2-3 東通原子力発電所 基準地震動策定のうち地下構造の評価について
(コメント回答)(補足説明資料) p.41

- 速度層構造の断面位置を示す平面図について、補機取水系施設を常設重大事故等対処施設として着色すべきところ、取水系施設に着色していた。
- 平面図は速度層構造の断面位置を示すものであり、断面位置は正しく記載されていることから、新規基準への適合性に対する説明内容に影響は無い。



(誤)



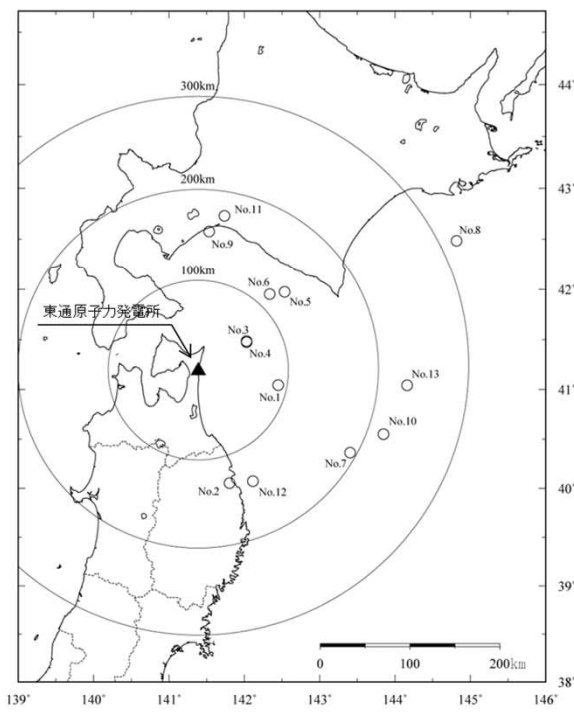
(正)

- 水平アレイ観測記録の検討に用いた地震の諸元のうち震央距離について、誤った数値を記載していた。観測記録諸元表の作成において、検討に用いた観測記録を選定後、震央距離を追加記載する際、東通の緯度・経度の入力を誤って計算していた。
- 震央距離は、検討の算定に用いた値ではなく、参考値として示したものである。また、ここで示している13件の観測記録は、最大加速度振幅(A_{max})を条件として選定した地震であるため、震央距離の修正による変更はない。震央分布図も正しい震央距離で作成しており変更はない。以上のことから、新規基準への適合性に対する説明内容に影響は無い。

3.2 水平アレイ観測記録の検討(原子炉建屋直下と自由地盤)
 (7) 臨時地震観測の検討に用いた地震

第902回審査会合(R2102)
 資料2-1-2 p.47 再掲 51

- 検討に用いた記録は、2018年12月～2019年11月に臨時地震観測点で得た記録のうち、原子炉建屋基礎版上の最大加速度振幅が0.1cm/s²以上の13地震とした。



検討に用いた観測地震

No.	年	月	日	時	分	東経		北緯		M	震源 深さ (km)	震央 距離 (km)	A _{max} (cm/s ²)
						(°)	(')	(°)	(')				
1	2019	3	18	7	53	142	27.03	41	2.63	4.1	49	139	0.27
2	2019	3	18	9	33	141	48.32	40	3.23	3.7	57	179	0.12
3	2019	3	30	19	59	142	1.76	41	29.06	3.9	63	93	0.28
4	2019	3	31	8	20	142	1.91	41	28.42	3.6	63	93	0.12
5	2019	4	3	5	29	142	32.17	41	58.42	4.3	62	144	0.11
6	2019	4	8	22	22	142	20.33	41	57.11	4.2	71	128	0.15
7	2019	4	11	17	18	143	24.29	40	21.75	6.2	5	245	0.97
8	2019	4	15	5	28	144	49.09	42	29.12	5.1	43	340	0.11
9	2019	4	19	16	5	141	32.09	42	34.62	3.9	122	129	0.18
10	2019	4	23	2	45	143	50.81	40	32.98	5.6	57	268	0.27
11	2019	5	4	21	34	141	44.25	42	43.77	4.2	133	152	0.15
12	2019	5	8	9	20	142	6.93	40	4.48	4.4	48	189	0.53
13	2019	6	13	9	56	144	9.71	41	2.57	4.7	63	276	0.20

※ A_{max}: 原子炉建屋基礎版上の臨時観測点における水平成分の最大加速度 (cm/s²)。高感度速度計の速度記録を加速度に変換。

震央距離の修正

139	91
179	131
93	63
93	62
144	129
128	116
245	193
340	319
129	155
268	219
152	174
189	138
276	233
(誤)	(正)

検討に用いた観測地震の震央分布

- 自由地盤T.P.-82.8mに見られた周期0.5秒程度の卓越に関する分析の説明文章において、「大きく」を「小さく」と誤って記載していた。
- 説明文章は、元より「大きく」の意味で記載しており、新規基準への適合性に対する説明内容に影響は無い。

3.3 自由地盤及び原子炉建屋直下観測点の増幅特性に関する検討
(8)自由地盤T.P.-82.8mの周期0.5秒程度の卓越に関する分析
鉛直アレイの増幅における弱層の影響

第902回審査会合(R2.10.2)
資料2-1-2 p.62 再掲 66

- 敷地地盤には、T.P.-100m付近に周囲に比べてややVsが小さい層が分布している。しかし、当該層のVsは約1.4km/sと周辺層(約1.8km/s)とのインピーダンス比は小さく、また、その長さも数百mオーダーのものであり、また、分布形状もほぼ水平なため、当該レベルでは地震動はほぼ鉛直入射になっていることも踏まえると、周期0.5秒の卓越は弱層によるガイド波的な効果によるものではないと考えられる。
- 伝播特性の多少の違いが卓越周期に与える影響を確認するために、1995年1月7日岩手県沖の地震(M7.2)のEW成分の観測記録に対し、主要動部分と後続波部分の応答スペクトル比の比較を行った。各部分のスペクトル比とも周期0.5秒過ぎに卓越周期を持っており、従って、T.P.-82.8mの周期0.5秒の卓越は地盤の増幅特性が起因しているものと判断される。
- なお、当該地震については、T.P.-282.8mのEW成分において周期0.5秒前にピークを持つ地震動であったため、震源特性と増幅特性の相乗効果でT.P.-82.8mの周期0.5秒の卓越が生じていると考えられる。

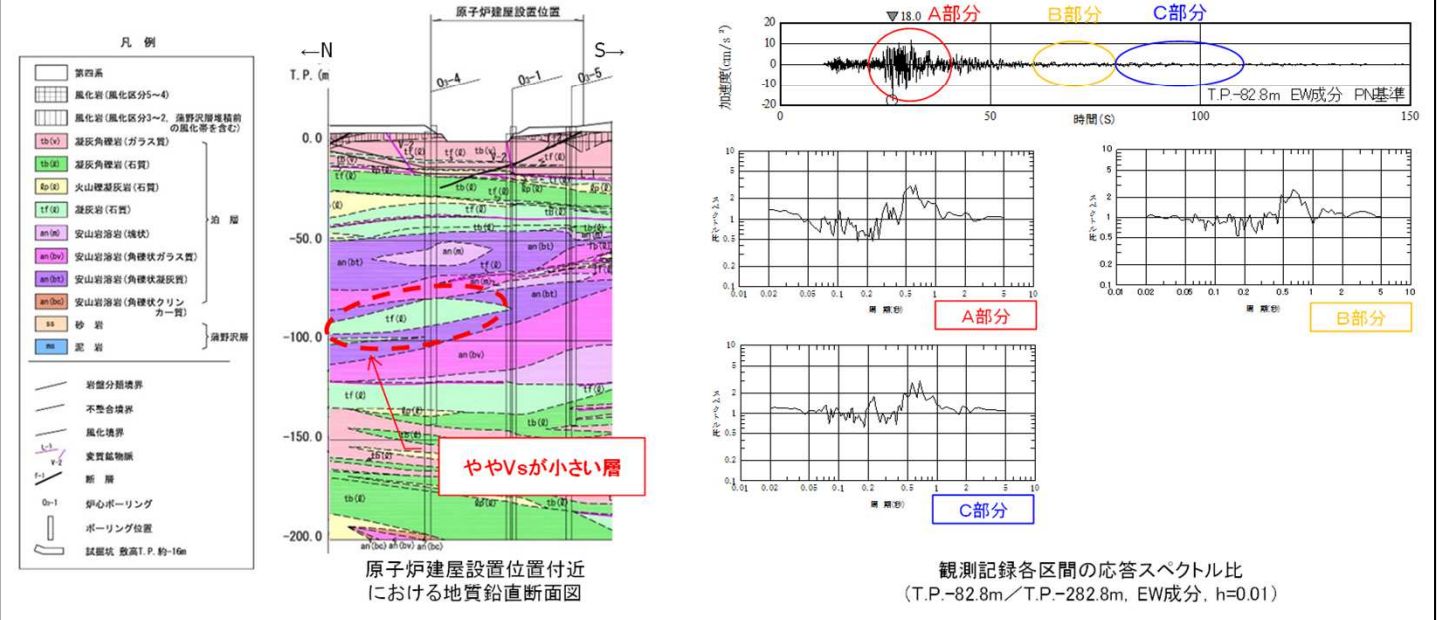
語句の修正

小さく

(誤)

大きく

(正)



- 深部地盤モデル作成において、コーダ部H/Vスペクトル比の評価に用いた地震の諸元のうち、1994年10月4日の地震の震央距離について、誤った数値を記載していた。
- 震央分布図の作成及びコーダ部H/Vスペクトル比の評価には震央距離は用いていないこと、当該地震の見かけ入射角は(正)の572kmで算定していることから、新規制基準への適合性に対する説明内容に影響は無い。

4.3 深部地盤モデルの作成

(3)コーダ部H/Vスペクトル比の評価に用いた地震

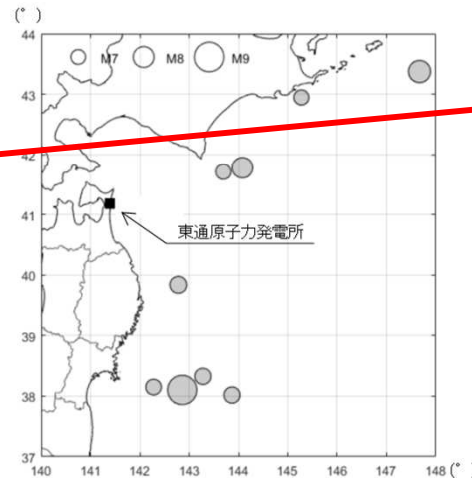
第902回審査会合(R2.10.2)
資料2-1-2 p.111 再掲

115

- コーダ部が卓越しやすい規模の大きな地震として、9地震を選定。
- 自由地盤のT.P.+10.0mの観測記録を用いて計算。
- 解析区間は、S波が収束したと考えられる時間帯60秒間を基本として調整。
- 水平2成分の二乗和平均平方根を分子とし、また、分子・分母それぞれを0.05Hz幅のParzenウィンドウで平滑後に計算。

地盤モデルの検討に用いた地震

年	月	日	時	分	東経		北緯		M	震源深さ (km)	震央距離 (km)	見かけ入射角 (°)
					(°)	(')	(°)	(')				
1994	10	4	22	22	147	40.4	43	22.5	8.2	28	573	87
2003	9	26	4	50	144	4.71	41	46.71	8.0	45	234	79
2003	9	26	6	8	143	41.49	41	42.59	7.1	21	201	84
2004	11	29	3	32	145	16.53	42	56.76	7.1	48	376	83
2005	8	16	11	46	142	16.67	38	8.97	7.2	42	346	83
2011	3	9	11	45	143	16.79	38	19.71	7.3	8	356	89
2011	3	11	14	46	142	51.66	38	6.21	9.0	24	365	86
2011	3	11	15	8	142	46.01	39	49.24	7.4	32	192	80
2012	12	7	17	18	143	52.02	38	1.19	7.3	49	411	83



検討に用いた地震の震央分布

震央距離の修正

573

(誤)

572

(正)

資料1-2-2 東通原子力発電所 基準地震動策定のうち地下構造の評価について
(コメント回答) p.137

- 2008年岩手県沿岸北部の地震の震源モデルの構築に関して、震源パラメータの検討条件の記載漏れがあった。ライズタイムの変動範囲のうち「tr」についてはSMGA1とSMGA2の変動範囲を記載するところ、SMGA2のみの変動範囲を記載していた。
- 最適モデルのライズタイムは、(正)の内容のとおりそれぞれの変動範囲で選定されており、新規基準への適合性に対する説明内容に影響は無い。

5.3 再現性向上を図った2008年岩手県沿岸北部の地震の震源モデルの構築
(4) 震源パラメータの検討

第902回審査会合(R2.10.2)
資料2-1-2 p.133 再掲

137

- 指向性効果に着目し、①ライズタイム、②M₀が大きいSMGA2の破壊開始点について検討を行う。また、破壊開始点間の距離の変更に伴い③破壊時刻(SMGA2)の影響についても確認を行う。
- 最適モデルの選定には、擬似速度応答スペクトル(h=5%)の適合度を基準とした。適合度の定量化のために、Dreger et al.(2015)によるCombined Goodness-of-fit(CGOF)を用いた。

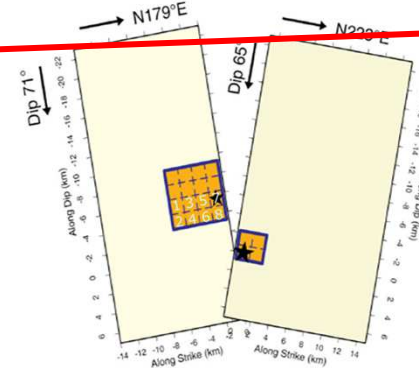
$$CGOF = \frac{1}{2} \left| \ln(obs / sim) \right| + \frac{1}{2} \left| \ln(sim / obs) \right|$$

obs 観測記録の擬似速度応答スペクトル
sim EGFによるシミュレーション結果の擬似速度応答スペクトル

| | 絶対値
< > 周期点数、観測点数についての平均

※CGOFの値は0以上の値をとり、Dreger et al. (2015)ではこの値が0.70以上になると不合格、0.35以下で合格としている。

断層パラメータ	変動範囲	備考
①ライズタイム	tr: 0.16~0.66秒 α=0.10~0.40 0.02刻み	<ul style="list-style-type: none"> 浅野・岩田(2009)のtr SMGA1: 0.06秒 SMGA2: 0.12秒 tr = α W / Vr <p>[参考]</p> <ul style="list-style-type: none"> 2003年5月26日宮城県沖の地震 tr: 0.18~0.36秒 浅野ほか(2004) 2011年4月7日宮城県沖の地震 tr: 0.6秒 原田・釜江(2011)
②破壊開始点(SMGA2)	8点(右図)	-
③破壊時刻(SMGA2)	1.5~2.5秒 0.1秒刻み	<ul style="list-style-type: none"> 浅野・岩田(2009)では2.1秒



破壊開始点の検討位置
浅野・岩田(2009)に加筆

検討条件の追記

tr : 0.16~0.66秒

α = 0.10~0.40
(0.02刻み)

(誤)

SMGA1
tr : 0.08~0.33秒

SMGA2
tr : 0.16~0.66秒

α = 0.10~0.40
(0.02刻み)

(正)

- 敷地内臨時高密度観測による観測記録を用いた検討において、各観測点の表層厚さ(標高から第四系基底面の高さを引いた値)のうち、No.12観測点の表層厚さについて、誤った数値を記載していた。
- 各観測点の表層厚さは、基準化スペクトルと微動H/Vスペクトルの計算に用いておらず、参考値として示したものであることから、新規基準への適合性に対する説明内容に影響は無い。

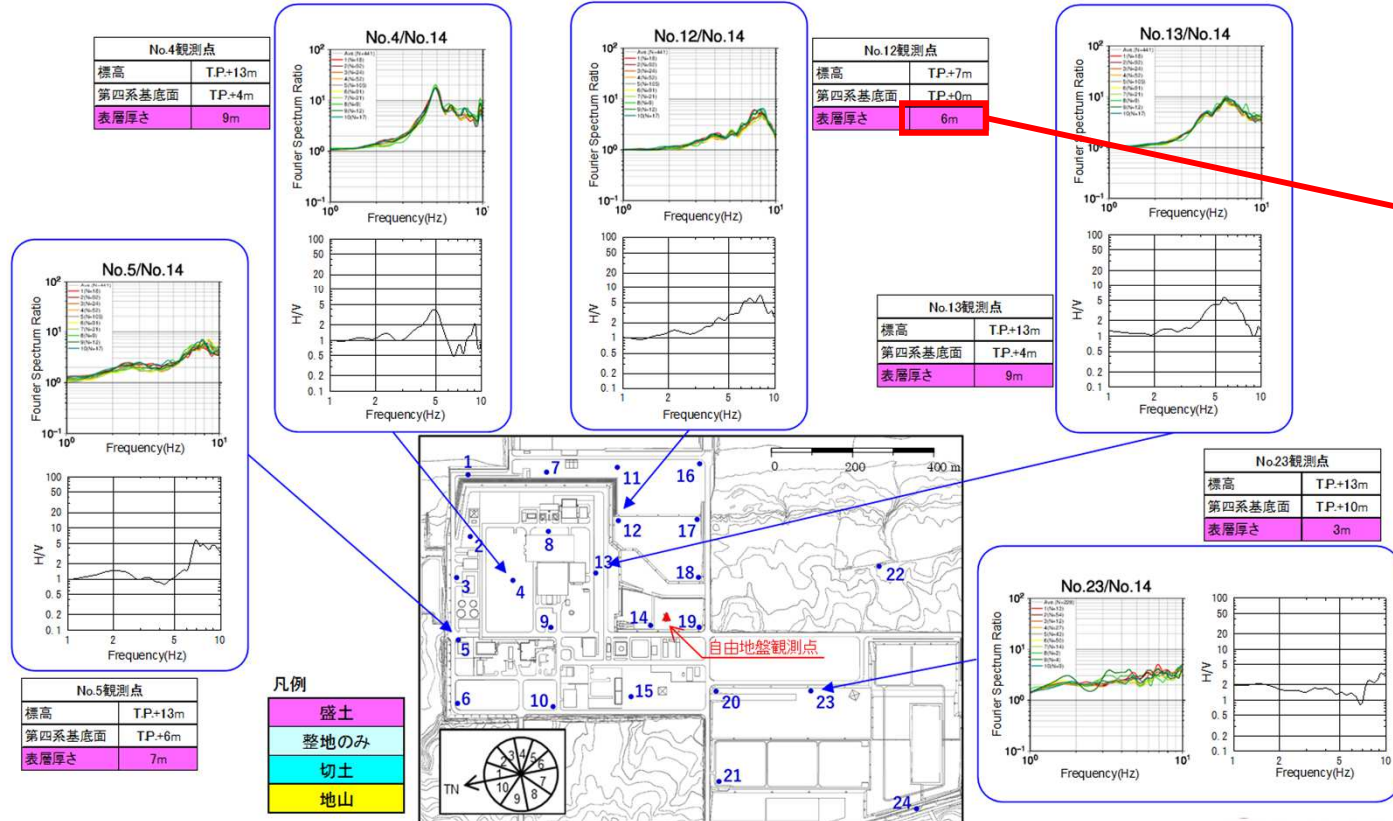
3. 4 敷地内臨時高密度観測

(1) 表層が基準化スペクトルの形状に与える影響②

第902回審査会合(R2.10.2)
資料2-1-3 p.50 再掲

57

- 基準化スペクトルと微動H/Vスペクトルとの比較及び表層地盤の厚さによる整理を以下に示す。
- 基準化スペクトルの形状は、地盤の増幅特性を表す微動H/Vスペクトルと良い対応を示す。また、切土・盛土の違いや表層地盤の厚さにより形状に違いがあり、盛土では卓越振動数が現れやすく、表層が厚いほど低振動数となる傾向がある。



表層厚さの修正

6m
(誤)

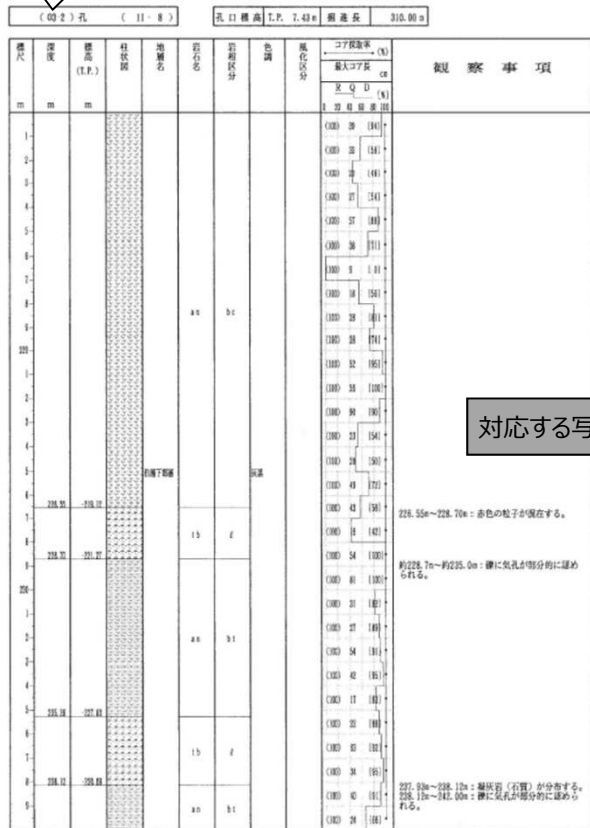
7m
(正)

机上配布資料1 東通原子力発電所 基準地震動策定のうち地下構造の評価について (コメント回答)(ボーリング柱状図・コア写真) p.36

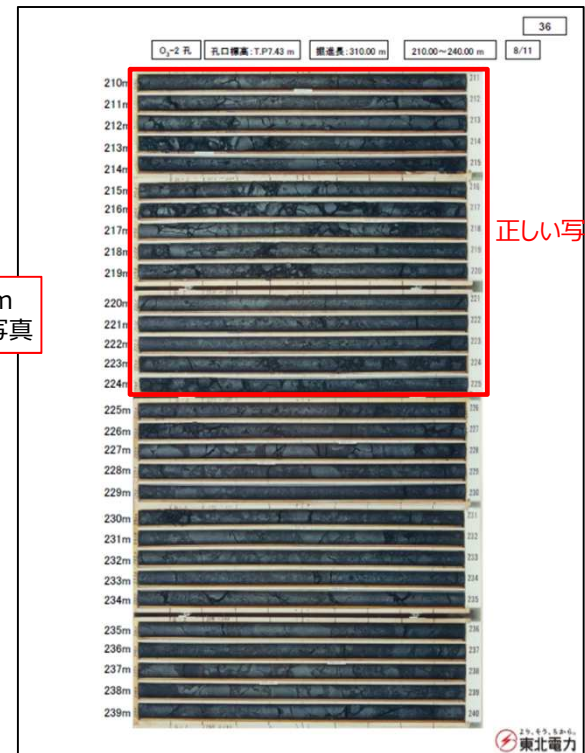
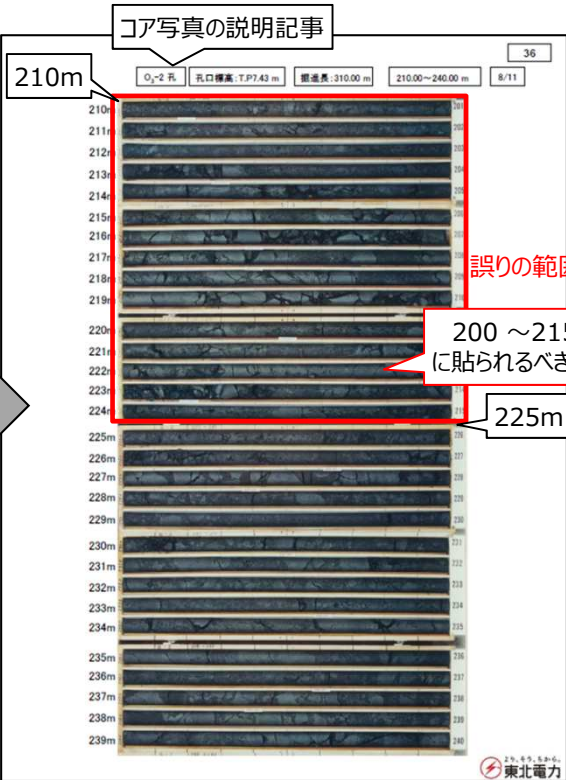
- O₃-2孔の深度210~225mに、深度200~215mのコア写真が貼られていた。
- ボーリング柱状図は正しく貼られており、コア写真の説明記事は正しく記載されていた。
- 地質断面図等の審査の判断に影響するデータは柱状図の情報に基づき作成することから、新規制基準への適合性に対する説明内容に影響は無い。

(第1113回審査会合(2023.2.10)にて報告した内容)

35 O₃-2孔



対応する写真



- 敷地で観測された主な地震として示した地震のうち、No.4の地震(2011.3.11)の北緯について、誤った数値を記載していた。
- 震央分布図の作成及び震央距離の算定は(正)の北緯38° 6.21'で行っている。また、誤った座標を用いた検討や評価は行っていないため、新規制基準への適合性に対する説明内容に影響は無い。

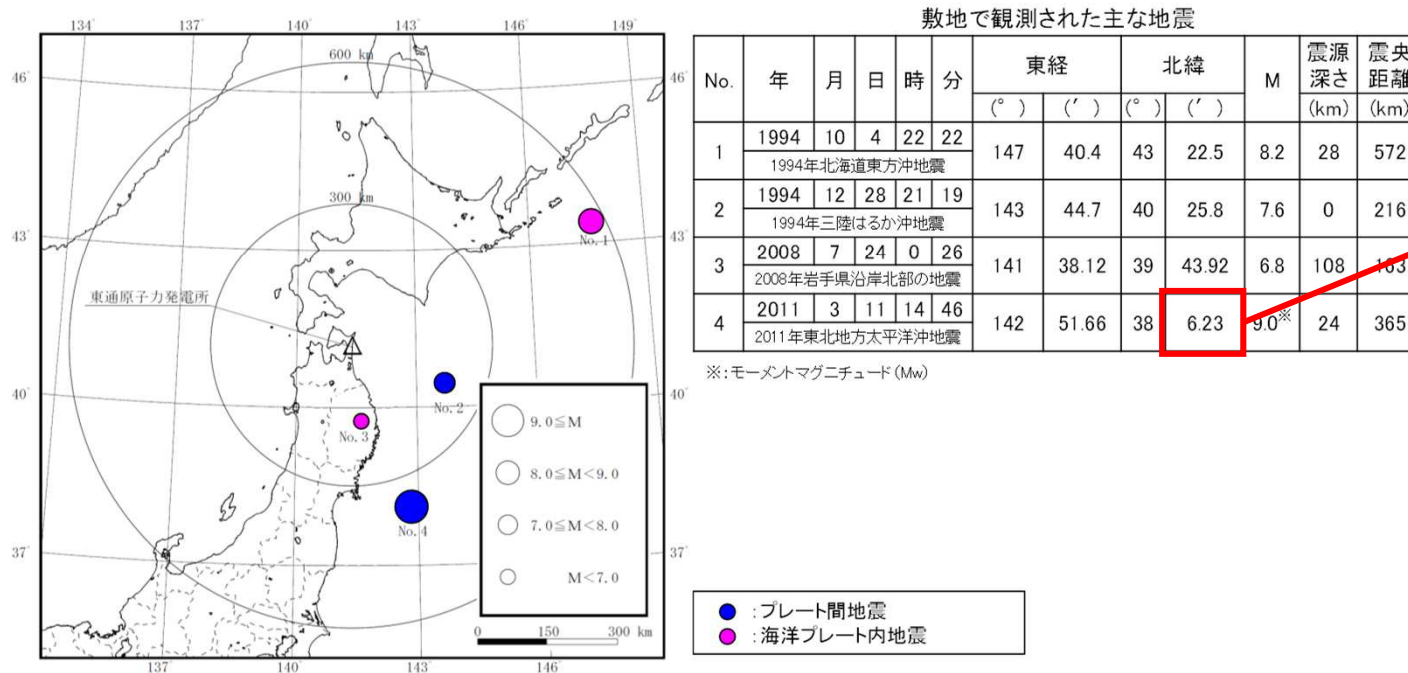
2. 敷地で観測された主な地震

(1) 主な地震観測記録 地震諸元及び震央分布

第902回審査会合(R2.10.2)
資料2-3-2 p.8 再掲

9

➤ 敷地で観測された主な地震を以下に示す。



北緯の修正

6.23

(誤)

6.21

(正)

敷地で観測された主な地震の震央分布

[地震諸元は気象庁(2020)による。]

誤字・脱字等の正誤表(1)

審査項目	修正資料	ページ	概要	誤	正	
地下構造	第943回 審査会合 (2021.2.5)	資料1-2-2 東通原子力発電所 基準地震動策定のうち地下構造の評価について (コメント回答)	20,21	用語の整合	建屋設置位置	原子炉建屋設置位置
			56,57	ページ誤り	伝達関数をp.102に記載	伝達関数をp.106に記載
			68	ページ誤り	58地震(p.49)とする。	58地震(p.54)とする。
			75	脱字	スペクトル密度	スペクトル密度比
			103	ページ誤り	p.98の図に対応する	p.102の図に対応する
			106	ページ誤り	p.52及びp.53に記載	p.56及びp.57に記載
			113	ページ誤り	文献はp.118に記載	文献はp.122に記載
			117	ページ誤り	文献はp.116に記載	文献はp.122に記載
			142	ページ誤り	補足説明資料p.68～71	補足説明資料p.76～79
			149	文献(3. 4)表記誤り	Keirri Aki	Keiiti Aki
	150	文献(5. 8)表記誤り	William J. Luding	William J. Ludwig		
	資料1-2-3 東通原子力発電所 基準地震動策定のうち地下構造の評価について (コメント回答)(補足説明資料)	51	文献表記誤り	池浦(2008)	池浦(2009)	
		52	ページ誤り	本資料p.90より抜粋	本資料p.96より抜粋	
		54	ページ誤り	本資料p.41再掲	本資料p.46再掲	
	第865回 審査会合 (2020.6.4)	机上配布資料1 東通原子力発電所 基準地震動策定のうち地下構造の評価について (コメント回答)(ボーリング柱状図・コア写真)	1	目次の記載誤り (ボーリング掘進長)	205.0(m)	220.0(m)
プレート間 地震	第968回 審査会合 (2021.4.23)	資料1-1 東通原子力発電所 基準地震動の策定のうちプレート間地震の地震 動評価について(コメント回答)	1	会合回数表記誤り	第934回審査会合	第943回審査会合
			71	図タイトルの誤り	基本ケース	不確かさケース
			78	用語の誤り	検討対象地震の選定	検討用地震の選定
			81	文献(4. 6)表記誤り	「日本海溝・千島海溝周辺 海溝型地震に関する専門 調査会」(第5回)	「日本海溝・千島海溝周辺 海溝型地震に関する専門 調査会」(第7回)
	資料1-2 東通原子力発電所 基準地震動の策定のうちプレート間地震の地震 動評価について(コメント回答)(補足説明資料)	1	会合回数表記誤り	第934回審査会合	第943回審査会合	
		16	ページ誤り	資料1 p.33より引用	資料1 p.35より引用	
		17～22	脱字	検討用いた主な観測記録	検討に用いた主な観測記録	

誤字・脱字等の正誤表(2)

審査項目	修正資料	ページ	概要	誤	正	
海洋プレート 内地震	第973回 審査会合 (2021.5.14)	資料1-1 東通原子力発電所 基準地震動の策定のうち海洋プレート内地震の 地震動評価について(コメント回答)	64	用語の誤り	北海道で発生した下面の 地震の最大規模は, 1994 年北海道東方沖地震 (M8.2)	北海道で発生した沖合の やや浅い地震の最大規模 は, 1994年北海道東方沖 地震(M8.2)
			112	凡例の誤り	標準準偏差	標準偏差
			128	文献(3. 8)表記誤り	Koauga	Kosuga
				文献(3. 13)表記誤り	Cosismic	Coseismic
			129	文献(3. 23)表記誤り	beneth	beneath
			130	文献(4. 13)表記誤り	Sesimological	Seismological
内陸地殻内 地震	第1039回 審査会合 (2022.4.11)	資料1-1-2 東通原子力発電所 基準地震動の策定のうち内陸地殻内地震の地震 動評価について(コメント回答)	77,79	用語の誤り	KiK-net港町	K-NET港町
			82	文献(5. 16,17,22)表記誤り	Earthquake	Earthquake
				文献(5. 17)表記誤り	Compornet	Component
				文献(5. 18)表記誤り	A NGA	An NGA
		資料1-1-3 東通原子力発電所 基準地震動の策定のうち内陸地殻内地震の地震 動評価について(コメント回答)(補足説明資料)	39	文献(3. 3,4,9)表記誤り	Earthquake	Earthquake
				文献(3. 4)表記誤り	Compornet	Component
			40	文献(3. 26)表記誤り	Structual	Structural
				文献(3. 29)表記誤り	Displacemnet	Displacement
震源を特定 せず策定す る地震動(全 国共通に考 慮すべき地 震動)	第1080回 審査会合 (2022.10.7)	資料4-1 東通原子力発電所 震源を特定せず策定する地震動の評価について (全国共通に考慮すべき地震動)(コメント回答)	4	目次の記載誤り	地震動価として採用する地 震動	地震動の評価結果